

羽根田卓也 後援会 会報



第2号
平成26年12月1日

編集発行：後援会事務局
発行者：神谷俊吉
編集長：加茂みきお
連絡先：光生7/ミニム工業株内
Tel 80-4491 Fax 80-4100

後援会会長 神谷俊吉挨拶

平素は後援会の皆様には羽根田卓也選手に絶大なるご支援を賜わりまして心より感謝申し上げます。昨年11月に本後援会誌を発刊以来、早いもので1年が経ちました。その間、羽根田選手も皆さんのご声援を背中に受け、世界各地でトレーニングを積み、今シーズンの各種大会でも健闘を続けてくれました。

その結果、9月の世界選手権では5位入賞(3位とは0.5秒の極小差)し、翌10月の仁川アジア大会では中国と台湾選手を押え、ぶっちぎりの優勝で今年の有終を飾る事が出来ました。

来年はいよいよオリンピックのプレイベントも始まります。9月のロンドン世界選手権がまずはリオオリンピックへの第1関門となります。そこでのメダル獲得は即リオへの切符となります。是非、羽根田選手の活躍を願わざるを得ません。

それに向け、私共後援会としても支援の輪を更に拡げ強化して行きたいと計画しています。皆様に於かれましても、本年以上にお力をお貸し頂き、引き続き羽根田選手を世界の檣舞台に押し上げて頂きたくお願い申し上げます。

カヌースラローム世界選手権大会

開催期間：9月17日～21日

開催地：アメリカ メリーランド州 ディープクリーク湖

男子カナディアンシングル 決勝 5位
(準決勝 6位/30、予選 18位/53)



2014 ICF CANOE SLALOM WORLD CHAMPIONSHIPS Deep Creek

USA
18.09. - 21.09.14



FINAL RESULTS LIST
CANOE SINGLE (C1) MEN

| Rank | No. | Name | Ctry. | Time | Penalty (seconds) | Total Time | Behind |
|------|-----|----------------------|-------|---------|----------------------|---------------|--------|
| 1 | 16 | LEFEVRE Fabien | USA | 1:08.82 | 0 | 1:08.82 | 0.00 |
| 2 | 5 | SAVBEK Benjamin | SLO | 1:08.82 | 0 | 1:08.82 | +1.80 |
| 3 | 11 | ALITCH Franck | CZE | 1:10.30 | 0 | 1:10.30 | +3.48 |
| 4 | 8 | SENDEL Jan | GER | 1:10.50 | 0 | 1:10.50 | +3.68 |
| ★ 5 | 13 | HANEDA Takuya | JPN | 1:10.89 | 0 | 1:10.89 | +4.07 |
| 6 | 23 | QUINN Thomas | GBR | 1:12.15 | 0 | 1:12.15 | +5.33 |
| 7 | 3 | SLAFKOVSKY Alexander | SVK | 1:09.91 | 4 | 1:13.81 | +4.93 |
| 8 | 10 | SOZIC Luka | SLO | 1:09.07 | 4 | 1:13.07 | +4.25 |
| 9 | 4 | SENZL Matej | SVK | 1:09.24 | 4 | 1:13.24 | +4.42 |
| 10 | 28 | VELANDO Thibault | FRA | 1:10.62 | 50 | 1:02.44 | +3.52 |

アジア競技大会

開催期間：10月1日～10月2日

開催地：韓国 仁川

男子カナディアンシングル 決勝 優勝
(準決勝 1位、準々決勝 1位)



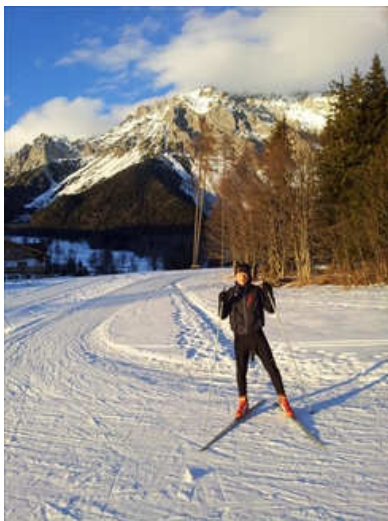
羽根田卓世選手からの近況報告です

後援会の皆様、いつも多大なるご支援ご声援ありがとうございます。簡単ではありますが2014年度の活動報告をさせていただきます。

2014年はロンドンオリンピックから2年が経ちました。次のリオオリンピックまでは、あと2年となる中間のシーズンです。ロンドンオリンピックの反省をリオオリンピックに向けて徐々に力にしていく年と考え過ごしました。2014年度の最も重要な大会は、9月にアメリカで行われた世界選手権、そして10月に韓国仁川で行われたアジア大会です。他にも日本選手権やワールドカップなど重要な大会はありましたが、全ての大会にピークを持っていくのは非常に困難なため、この2大会に特にフォーカスを絞って年間トレーニング計画をコーチと立てました。昨年のシーズン終了後、一年間酷使した体を休ませた後、冬季トレーニングに入りました。

冬季トレーニングでは、カヌートレーニングの練習量の割合を大幅に減らし、その分陸上トレーニングに費やします。具体的なトレーニング例として筋力アップのためのウエイトトレーニング、持久力アップのための走り込み・水泳、バランスボールや様々な器具を使ったコーディネーショントレーニング、そしてカヌーに近い動きをするため効果的な筋力及び持久力アップが図れるクロスカントリートレーニングなどです。これらのトレーニングを組み合わせながらおよそ3ヶ月ほどカヌーとは離れたトレーニングをしました。基礎体力アップは僕の課題の一つであり、世界で戦うためには必ず越えなければいけない壁の一つです。一冬ではなかなか克服することが難しい壁ですが、着実に成果がでてきています。

2月からは南半球のオーストラリアのシドニーへ6週間の合宿へ行きました。ヨーロッパはまだ真冬のためカヌーが漕げません。かと言って春を待ってしまうとあまりにもカヌーを漕がない期間が長すぎてしまうため、毎年オーストラリアへ合宿に行きます。この合宿では冬季トレーニングで培ったものを、久しぶりのカヌーに徐々に慣らしつつ繋げていきます。



この期間は試合などが何もないため、レース形式などの実戦的トレーニングはせず、基礎技術の反復練習などを丁寧に繰り返していきます。6週間怪我や病気などもせず非常に良い合宿ができ、2014年の良いスタートが切れました。

4月に富山県で開催された日本代表選考会を兼ねた日本選手権(NHK杯)では10連覇を飾る事ができました。

その後はまた活動拠点でありスロバキアに戻り、6月から始まるワールドカップに向けてトレーニングをしていきました。

ここではオーストラリアで行っていた基礎練習とは変わり、レース形式的なトレーニングを取り入れ大会に向けて準備をしていきました。



最初のワールドカップが行われる場所はロンドン、第2戦がスロベニア、第3戦がチェコ、第4戦がドイツです。初戦が25位、第2戦が13位、第3戦が15位、第4戦が7位という結果でした。トップ10入りをノルマとし、目標をメダル獲得として臨んだのですが、最初の3戦ではノルマさえも達成できない非常に悔しい結果になってしまいました。第4戦ではトップ10入りはしたのですが、決勝で細かいミスがつづき7位でした。準決勝で上位10人に進まない、決勝のメダル争いには参加できないのでこれからは更に確実に決勝10人に入れるようにならなければなりません。

ワールドカップの反省を生かしつつ、今年最大のフォーカスの一つである世界選手権に向けてトレーニングを重ねました。僕と同じように各国の選手がこの世界選手権にむけてフォーカスをあて、万全のコンディションで臨んできます。1年間の大会の中で最もレベルの高い大会です。自分もこの大会に向けてトレーニングをこなし、フォーカスをあてていたため、自分の中でも最高のコンディションが仕上がりました。どんなに調子が良くても一つのミスが命取りになってしまいますが、ベストコンディションで臨める事は、良い結果を出すためのプラス要素の一つに違いありません。

予選では18位と内容も順位も納得のいく出来ではありませんでしたが、無事上位30人の準決勝へと駒を進める事ができました。準決勝では自分の漕ぎができて、6位で上位10人の決勝進出を決めました。決勝では序盤にタイムロスがあり、終盤で取り戻そうとしましたが、トップタイムには届かず5位という結果でした。表彰台の3位までには、あと0.5秒届かず非常に悔しい思いをしました。

しかし世界選手権というのは文字通り世界で何番目かを定める大会であり、事実上オリンピックよりも競争率が高い最もハイレベルな大会です。



その大会で5位という順位は次に繋がる評価に値する成績と考えています。世界選手権の2週間後がアジア大会となっており、2つの大きな大会の間が2週間という非常に短い期間でした。

また今回のアジア大会は湖で行われ、水流の全く無い湖に設置された障害物をスラロームしてタイムを競うという形式でした。なぜならば韓国ではカヌースラロームが普及しておらず、カヌースラロームコースが無いため、今回のアジア大会ではこのような特別な形式が採用されました。僕としてもこの形式の大会は小学生以来初めてであり、非常に不安が残る中で臨んだ大会でした。と言うのもこのような水流の全く無い場所は、通常の激流のコースのための練習とは全く違ったトレーニングが必要だからです。世界選手権とアジア大会、最も重要な2大会が全く違う両極端の環境であり、そして期間を空けず続けて行われたわけです。

また日本以外のアジア諸国は世界選手権には出場せず、このアジア大会のためにトレーニングを積んできた選手ばかりでした。以上の理由などがあり、厳しい戦いが強いられる覚悟で臨みました。

とにかく今持っているコンディションを100%発揮すること、そして考える戦略を尽くしてその100%の上限を最大限まで引き上げる事に全力を注ぎました。予選準決勝と非常に厳しい戦いが続きましたが、優勝候補の中国を準決勝で0.2秒差で下し、決勝へと駒を進めることができました。その決勝では台湾の選手を下し、自身初となる金メダルを獲得することができました。今大会では、逆境の中でいかに勝つかを学ばさせていただきました。金メダルよりもこの経験が僕の中で大きな財産になりました。

来年からはいよいよオリンピックイヤーが始まります。

来年9月にロンドンで行われる世界選手権が、リオオリンピックの切符を賭けた一次予選となります。ここで必ず出場を決め、早い段階から本番のオリンピックに準備する事が第一段階です。

またリオの切符だけではなく、世界選手権メダル獲得も成し遂げなければいけない目標の一つです。厳しい戦いは必至ですが、今シーズンの経験を糧に最大限の努力をしていきたいと思えます。

これからも皆様変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願い致します。



アジア大会で金メダルを獲得し 豊田市長を表敬訪問しました

10月7日(火) 市長室

羽根田卓也選手がアジア競技大会の報告のため、豊田市役所を訪れ、太田稔彦豊田市長を表敬訪問しました。

この日は羽根田選手のほかに、豊田市カヌー協会の加茂みきお会長、羽根田選手の父親で豊田市カヌー協会の羽根田邦彦副理事長、そして羽根田卓也後援会の伊藤隆郎事務局長が同席しました。

10月2日、羽根田選手は韓国の仁川で開催されたカヌースラローム男子カナディアンシングル決勝戦に出場し、強豪の台湾・張允詮選手に勝ち見事優勝しました。羽根田選手は前回、銀メダルを獲得していますが、今回初の金メダルを獲得しました。

また9月20日にアメリカ・メリーランド州ディープクリーク湖で開催された世界選手権でも決勝進出5位という初の上位入賞を成し遂げました。

羽根田選手はこの戦績について太田市長に対し「ロンドン五輪以降、練習量を増やし環境が整い、技術も体力、メンタル面すべてで向上していると言い切れるようになりました。体力のある中国選手に有利な静水に設置されたコースに優勝は難しいと思って臨みましたが、準決勝で対戦した中国選手には0.23秒差で勝ちました。力がついてきたという証拠と胸を張りました。目標はリオ五輪でのメダルです。世界一に突き進むことが楽しくて仕方ないです。アジア大会でも成長を実感しています」と述べました。

太田市長は金メダルや賞状を手にしながらか「期待通りの結果、おめでとうございます。リオオリンピックも期待しています」と世界選手権やアジア大会の快挙をたたえました。

後援会副会長 加茂みきお



事務局からのご連絡

1. リオデジャネイロオリンピックへ向けてのご支援ご協力をお願い
2016年8月5日開催まで あと 21ヶ月 となりました。

より多くの方々に羽根田卓也選手への応援を
お願いしたいと思います。 宜しくお願い致します。

2. 今年度会費納入のお願い
平成26年度年会費振込先
豊田信用金庫 本店営業部
普通預金 8986360
羽根田卓也後援会 会計 本田 泉 (ホンダ イズミ)

3. 年会費
個人会員 5,000円 (1口) 以上
法人・団体会員 10,000円 (1口) 以上
特別会員 100,000円 (1口) 以上

